

| | | | |
|-----------------------------------|--------|------|--------------|
| 平成21年10月15日 県政記者クラブ・高山市政記者クラブ配布資料 | | | |
| 所属 | 担当部 | 担当者 | 電話番号 |
| 畜産研究所 | 飛騨牛研究部 | 向島幸司 | 0577-68-2226 |

飛騨牛新規種雄牛「花清国」が日本一の肉質成績

岐阜県畜産研究所（所長 加藤 勉、高山市清見町）で造成、繋養されている新規種雄牛「花清国」の現場後代検定*1が終了し、平成17年度以降に全国和牛登録協会が行う現行の評価法の下で、霜降り具合をあらわす脂肪交雑について日本一の成績であると評価されました*2。

飛騨牛の肉質改良は、昭和から平成初期にかけて活躍した「安福」、その息子の「飛騨白清」が引き継ぎ、更にその後継牛である「白清85の3」が飛騨牛ブランドを発展させています。現在は「白清85の3」が最も活躍をしていますが、これに続く種雄牛の造成が望まれています。

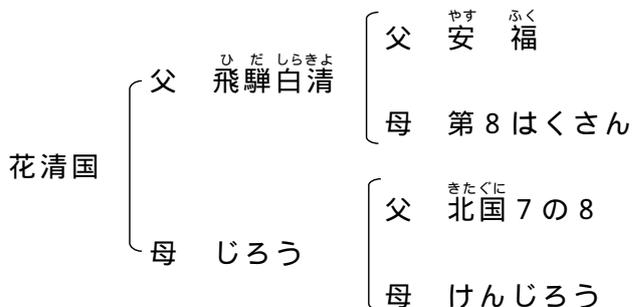
今回造成した「花清国」は「白清85の3」とともに2枚看板として、今後の飛騨牛を更に飛躍させてくれるものと期待しています。

*1：現場後代検定とは、種雄牛の産肉能力の調査法です。種雄牛の産肉成績は種雄牛自身を枝肉にして調査することができないため、その子供（後代）を肥育し枝肉にして調査します。「花清国」の評価は、肥育した27頭の子供について行われました。

*2：平成21年4月までの評価として全国和牛登録協会がとりまとめたものです。

1 「花清国」のプロフィールと検定成績

- ・生年月日 平成15年9月5日
- ・所有者 岐阜県畜産研究所
- ・生産者 岐阜県中津川市福岡町 花田増美 氏



・検定結果

| 検定種雄牛 | 頭数 | 期待枝肉成績 | | | | | |
|------------------------|-----|--------|-----------------|-----|------|------|------|
| | | 枝肉重量 | ロース芯面積 | バラ厚 | 皮下脂肪 | 歩留基準 | 脂肪交雑 |
| | | kg | cm ² | cm | cm | % | * 1 |
| 花清国 | | 438.2 | 59.2 | 7.9 | 2.1 | 75.1 | 4.11 |
| 全国平均 (H17 ~ H21前期分) | 247 | 442.4 | 55.0 | 7.6 | 2.3 | 74.0 | 2.24 |
| 全国平均 (H21 前期分) | 20 | 432.5 | 55.6 | 7.4 | 2.2 | 74.2 | 2.34 |

* 1 :脂肪交雑は基準値 :5 (最良) ~ 1

* 期待枝肉成績：当該種雄牛自身が肥育されたと仮定した場合に期待される枝肉重量や脂肪交雑などを統計的に算出したものです。

この成績を用いることで種雄牛の全国比較が可能になりました。

* 枝肉重量：牛（生体）から頭、皮、内臓等を取り去った後の重量

* ロース芯面積：どれだけ大きなロース（胸）肉が採れるかの指標

* バラ厚：肋骨付近の肉（バラ）がどれだけ採れるかの指標

* 皮下脂肪：皮下脂肪がどれだけの厚さで付いているかの指標

* 歩留（ぶどまり）基準：生体からどれだけの肉（枝肉）がとれるかパーセントであらわしたもの

* 脂肪交雑：霜降り具合をあらわす基準

「花清国」は、脂肪交雑（霜降り具合）において最高の成績で、ロース芯面積、バラの厚さ、歩留基準値も良好であり、全国最高の肉質であると評価されました。

2 「花清国」造成に至った経緯

飛騨牛は平成14年および平成19年に開催された全国和牛能力共進会の肉質部門でトップの成績を収め、肉質の良い「飛騨牛」として全国的に評価されています。このような中、更に肉質面の改良を目指して、県内の母牛の中から選抜された高能力雌牛「じろう」に、高能力種雄牛「飛騨白清」を交配して「花清国」が生産されました。今回優秀な種雄牛が造成された背景には、畜産研究所（研究課題名：スーパー飛騨牛ブランド開発プロジェクト）と関係者が飛騨牛ブランドの発展を目的に一体となって取り組んでいる組織力があります。